

平成22年度第2回しなの鉄道活性化協議会 議事概要

日時 平成22年10月29日(金)

13時40分～15時40分

場所 上田市 上田駅前ビル「パレオ」

1 開 会

2 あいさつ

しなの鉄道活性化協議会長

3 会議成立の報告（事務局）

委員26名中18が出席。出席者が過半数を超えており会議が成立していることを報告。（協議会規約第6条第2項）

4 協議事項（議長：会長 協議会規約第6条第1項）

（1）平成22年度国庫補助金の交付決定について

（2）平成22年度事業委託契約書の締結について

事務局から「資料1」、「資料2」を一括説明

（質問・意見等なし）

報告のとおり承認。

（3）軽井沢一小諸間増便実証運行の状況について

事務局から「資料3」、「資料4」、「資料5」を説明

（質問・意見等）

ア アンケート調査結果、資料4-2の7ページ、12番に「冷房が利きすぎて寒い。弱冷房にしてほしい。」との意見があります。今日、乗車してきた列車は昨日来の寒さから暖房を利かせていただいておりますが、熱過ぎる状態でした。駅でドアが開くと外のひんやりした空気が入り、それでちょうど良くなるという感じで、走行中はサウナブロに入っているのと同じように、座っていても下から熱気がくる状態でした。ワンマンの場合、乗務員の皆さんは車内の温度変化に反応しきれていないのではないのでしょうか。運転士は左サイドの窓を開けており、車内の方までは分からなかったのではと思います。メカニックの関係で調整できるようなにはならないのでしょうか。的確な状況把握ができれば、より快適に過ごせるのではないかと感じました。

それから、同じく7ページの26番「ローカルな感じはいいが、窓をピカピカにするだけでも活気が出るように思う。」は、非常に良い意見だと思います。今日も景色を見ながら来たのですが、たまたま雨が降ったせいか窓がきれいになっていない感じがしました。右側の窓は清掃が行き届かない感じで、左側の窓はきれいになっていました。小さな意見かもしれませんが、少しの気づかいがあればより良くなるのではないのでしょうか。

<議長>

貴重なご意見有難うございました。アンケート調査結果等も踏まえて、今後とも精一杯努力してまいりたいと思います。

イ 12月のダイヤ改正の話がありましたが、私どもの地域沿線におきましては度々最終新幹線（下り）の上田以北接続について行政を含めお願いしてきておりますが、これについては全く見通しが無いということでしょうか。前回の時も、次期ダイヤ改正においても非常に難しいとのことでしたが、商工会議所で行政等への要望を取りまとめる中で、改めて強い意見が出されています。見通しはどうか説明いただきたい。

<事務局>

今回の軽井沢駅での最終新幹線接続については、実証運行ということで沿線の自治体からご負担をいただき、地域公共交通活性化補助金と合わせて運行するものでございます。実証運行は連携計画の期間を想定していますが、どれだけの利用があるのか様子を見ながら、今後本格運行をしていくのかどうか見定めるためにも今回やらさせていただくものです。それ以外のものにつきましては、限られた列車本数や運転士、車掌の人員配置等を考慮しながら、また、JRのダイヤとの調整等を行う中での改正となっています。ご意見をいただきましたように、全ての要望に応えるということにはなっておりません。今回のアンケートの中でもまだまだ接続が良くないというご意見もいただいておりますので、引き続きより良いダイヤになるよう努めてまいりたいと考えております。

ウ まるっきり新規にということではなく、今まであったものが無くなってしまったわけで、データもありますよね。連携計画を作成するときも沿線住民だけでなく法人関係にもアンケートを行い、（最終新幹線との接続の）要望があったわけですので実現方よろしくをお願いします。

エ 今回の増便の関係については、はっきり分かっておられない方もいらっしゃる

ようですし、事務局の説明もきちんとされていないに思いますので一言申し述べさせていただきます。しなの鉄道に増便の働きかけを行ったのは小諸市、御代田町と私どもの3市町で、お金を出すからやってほしいという話からはじまったもので、3市町の事業にこの活性化協議会が乗っていただき国の補助が付いたものでございます。国の補助金がつかなくても3市町でお金を出すから増便してほしいということからスタートしており、このことについて事務局としてもきちんと説明していただいた方が良いのではないかと思います。

<議長>

そこのところは説明不足であったかと思えます。いずれにしても只今のような趣旨でございますのでよろしく願いいたします。

オ 資料3の実証運行乗降調査の評価に関することですが、長野市、須坂市、千曲市でも長野電鉄屋代線の実証運行を3カ月間行いまして、先々日、約1割利用が伸びたという報告をさせていただきました。(資料3では)実証運行前(7月)との比較はありますが、対前年との比較がポイントとなるかと思えますので、可能であれば資料として出していただければと思います。

<事務局>

今回資料としてはお出ししてありませんが、軽井沢・小諸間の対前年の数字を持ち合わせておりますのでご紹介いたします。

通常の切符をお買いもとめいただく普通ローカルの8月の状況は、対前年比103%となっています。また、9月は84.5%と昨年を大きく下回っています。ご指摘のとおり前年との比較も重要な要素となりますが、年度によって気候的なものや曜日の並びによって違いがありますのでその辺をどう評価したらよいのか難しい面があります。たとえば、昨年の8月は冷夏であったこと、逆に今年は猛暑で出控えがあったのではないかと思いますし、昨年の9月はシルバーウィークがあり例年を上回る伸びがありましたが今年はその反動が出ているという状況もあります。

<議長>

乗降調査の関係ですが、鉄道事業にとって8月、9月は特異な時期で、夏休み等があり例年利用客が増える時期でもあります。増便前の7月に比べてこの2カ月の数字を持って増えたとか減ったとか判断するには無理があり、もう少し長期的なスパンで見えていく必要があります。通常、新しいダイヤを設定し、これが定

着し利用するかしないかの判断に至るまで1～2年程度かかることもありますので、この2カ月の数字を持って云々するのは早計かと思います。

カ 実証運行については沿線自治体の負担をいただきながらやっている実験ですが、アンケート結果を見ますと「知っていた方」が46%、知っていた方も「駅案内」で知ったがほとんどとなっています。せっかくこれだけの経費をかけて運行しているわけですのでもっとPRする必要があるかと感じました。資料を見ますと各市町の広報紙で詳しく取り上げられていますが、アンケートでも「十分便利になっている。定期の更新をせずに車やバイクに切り替えるつもりだったが、様子を見る。」と言ってくさっているように、今使っている人に引き続き使ってもらうこともさることながら、今は車で通勤しているがそんなに便利になったんならしなの鉄道に戻ろうかという方を開拓する意味でも積極的なPRや事業所への働きかけが必要ではないでしょうか。季節要因とかで乗客数に色々な変動があるにしても、実感として伸びたと思われないと、負担をしていただいている市町の皆さんも厳しいところが出てくるのではないかと思います。

<事務局>

駅での案内ですが、各駅に横断幕を張り出して「実証運行を実施しています。(軽井沢駅での新幹線との)接続改善がはかられます。」といったもので周知しております。その他、新聞折り込みでの時刻表配布やチラシ配布等を行っています。また、これから行うものとして軽井沢・小諸間の各市町の全戸に増便が分かる時刻表を配布することを考えています。車内の中吊り広告でも「実証運行をしています。接続改善がはかられますます便利になります。」の内容でPRしており、12月4日のダイヤ改正に当たっても同様に周知してまいりたいと考えています。

キ 今やっというらっしゃることを教えていただき、有難うございました。いずれにしろ、プリンスのアウトレットに勤める人だとか実際に駅にさえ来ないような人達にも伝わるような周知というものを今後も続けていただければと思います。

<議長>

只今のご指摘は大変重要なことだと思います。沿線の市町の皆さんにも広報を通じご協力をいただいているわけですが、この関係につきましては(5)の方で後ほど紹介があるかと思っています。

その他、とりわけ増便に関し御苦労いただきました小諸市、軽井沢町、御代田町の皆さんいかがでしょうか。

ク 実証運行の乗降調査を見ますと、正直なところ今のところはそれほど効果が出ていないなという感想を持ったところです。ただ、今度軽井沢での新幹線最終便との接続ができ、小諸市民の皆さんに最終便との接続要望が多かったことを考えますとどの程度増えるのか期待をしているところであり、今しばらく様子を見させていただければと思います。

ケ 12月から新幹線最終便との接続をやっていただけることに感謝しております。先ほど事務局からも説明がありましたが、1カ月や2カ月の(乗客数の)数字を見て踊らされているようでは、中・長期的な計画として考える中ではダメなのかなと感じています。徐々に浸透して利用者が増えることを考えていかなければいけないのではないのでしょうか。増発の話は2年前からですが、3市町で協議していく中で最終的に公共交通は地元で守らなければダメだろうということで意見の一致を見ました。どこを見ても第3セクターはギリギリでやっています。しなの鉄道本体には電車を走らせることを基本にやっていただき、沿線市町は公共交通という意識を持って取り組まないと存続が出来ないことは全国の例でも明らかです。廃線という案が出てから協議するのではなく、ある程度元気のあるうちにビタミン剤を与えた方が良くはないかと思ひ、しなの鉄道にご理解いただき増便が実現いたしました。よく出来たなというのが実感です。

<議 長>

先ほども申し上げましたが、乗降の動向につきましてはもう少し長いスパンで効果なりを見ていく必要があると思います。増便に係る補助事業は一応3年間ということですが、補助金の行方が今後どうなるのか分からないこともあり若干不安要素がありますが、いずれにしても只今のような視点で見ていくことが必要ではないかと思ひます。

コ 今回、新幹線最終便との接続が図られることに大変感謝しております。3年間・3段階で実証運行していただけるとのことで、今回は最終新幹線との接続、次は軽井沢・長野間の直通化と段階を追っていくので、長いスパンでみていければと思います。沿線市町としては、何らかの仕掛けが必要ではないか感じており、他市町とともにアイデアを出し合っていければと考えています。

サ 小諸市では3月の第1日曜日に「わら馬パレード」を行っておりますが、しなの鉄道に大変協力していただき感謝しています。小諸市の高齢者クラブ連合会では、健康づくりということでウォーキングを検討しており、軽井沢の旧道を歩き

しなの鉄道で小諸に帰る計画を立てています。このようなことを年間を通じて実施するような動きになっていますが、20人、30人の参加者に対し(しなの鉄道の運賃)割引があるのかどうか確認したい。

シ ウォーキングに関するルートは、DCキャンペーンの「未知を歩こう信州」でも各自治体や団体で設定し冊子にもなっておりますが、駅から歩く設定がいま一つ少ないかなと感じています。列車の利用促進と健康増進を合わせてイメージし、軽井沢に来たお客さんが小諸を起点とし滋野や田中まで足をのばしお帰りいただくようなルートを設定することが大事かと思います。昨年も列車を利用して追分なり坂城のバラ園にお連れするツアーを組みましたが、今後も色々な設定をしてまいりたいと思います。

ス しなの鉄道の窓口はどこになりますか。

セ しなの鉄道本社の営業課です。

(4) 列車内中吊り広告の実施状況及び今後の予定について

(5) 沿線自治体広報紙への広報掲載について

事務局から「資料6」、「資料7」を一括説明

(質疑・意見等なし)

原案のとおり承認

(6) その他

・企画列車、企画きっぷについて

事務局から別添のチラシ「復活 第2弾 169系湘南色」の企画列車の運行、企画きっぷの発売について説明

(質疑、意見等なし)

・和歌山電鐵株式会社「小嶋社長」による講演及び意見交換について

事務局から標記への参加について依頼

(質疑、意見等)

ア 小嶋社長につきましては、和歌山電鐵貴志川線を再建されテレビでも取り上げられておられますのでご存知の方もおいでになるかと思えます。再建がどうしてうまくいったかと言うと、行政の協力体制がしっかりしていたとい

う他に市民運動が上滑りでなく本物であったとおっしゃっています。先ほど、軽井沢町さんもおっしゃったように廃線の危機を向かえて動くのでは遅いということで、日頃から沿線の住民の皆さんを巻き込んでしなの鉄道を使っていただくような動きが必要かと思います。そういう意味でヒントになればと期待しておりますので幅広く多くの皆さんに参画いただき、今後の協議会の参考にしていただくようお願いいたします。

・交通基本法と地域公共交通の今後のあり方について

北陸信越運輸局長野運輸支局から標記件名の資料について説明

その他の意見等

ア 提出されたチラシにもあるように、11月19日から23日にかけて軽井沢プリンスショッピングプラザ・プラチナバーゲンが行われます。この期間（軽井沢）駅南に車が殺到し、プリンス通り、国道、バイパスとも全く動けない状況になります。プラチナバーゲン号を大いに宣伝していただき、しなの鉄道沿線のどこかの駐車場を利用し、軽井沢へは電車に来ていただくようお願いいたします。

2点目ですが、私は軽井沢高校の経営審議員をやっており、先ごろ、生徒、先生、PTAとの懇談を行いました。生徒から軽井沢・中軽井沢間に中間駅をとの強い要望が出されました。今の状況では難しいとは思いますが、「何とかしたいですね」と話しておきました。バスは通っておりますが、バス代も高いので何とか中間駅が実現できればありがたいと思いますので、頭の中に入れておいていただくようお願いいたします。

<議 長>

只今の前段のお話は非常に大事なことでして、今のお話に沿ってパークアンドライドじゃないですけど駐車場の利用を積極的にお願いしたいと思います。

後段の話ですけれども、その話はよく聞いております。ちょうど(軽井沢高校が)軽井沢と中軽井沢の中間なんですよね。確かにあそこまで歩くのは大変だろうと思います。先程のアンケートの中でも「最近は高校生といえども親御さんが送り迎えをしている」ようなお話もあつたりします。何とかしなければと思いますが、いろいろな制約もありますのでおっしゃるとおり頭に入れ今後もそれとなく気にかけてまいります。今ここでどうのこうのと言う話にはならないと思います。

イ 中間駅については費用対効果が一番大事ですので、そこら辺を計算してみたい数字が出なければ無理なことだと思いますが、要望があるということだけ申し上げておきたいと思います。

<議長>

交通基本法と今後の地域公共交通のあり方の中の補助事業について、23年度（補助事業2年目）は現行予定しているような形でいいのではないかといいお話ですが、当協議会の補助事業は22年度から24年度までの3カ年を予定しており、3年目の24年度がどうなるのか気になりますがその辺はいかがでしょうか。

<北陸信越運輸局長野運輸支部>

今のところ何とも言えませんが、本庁の課長の話では補助事業2年目のところについては23年度だけは経過措置をとるということですので、24年度以降は全部交通基本法の方に入っていくのかなと思います。調査事業をされ今年3年目（補助事業2年目）を実施しているところは23年度（補助事業3年目）からは新たな制度でと言われておりますので、24年度は全部新しい制度になるのではないかと思います。

<議長>

2年後の話ですので今の時点ではどうのこうのということはないかと思いますが、どんな形であれ実質的なものは今後も存続されるようよろしく願いたいと思います。

ウ 補助事業についてお聞きします。しなの鉄道活性化協議会は来年度経過措置がとられるようですが、上田市、小諸市、千曲市で行っている活性化協議会は今年2年目の事業を行っています。（来年度は新たな制度に移行予定の協議会も）事業実施の前段で公共交通活性化プランを策定しやってきた経過があります。改正案を見ますと今回も地域公共交通に係る計画を策定してやっていくようなフレームになっていますが、どの程度の新たな計画が必要なのでしょう。3年前に作ったまだほやほやの今の計画は生かしたままで、事業だけ移行するのかその辺どうなのでしょう。新たに全面的な計画を作るとなれば負担が大きくなります。まだ分からないのであれば負担がかからないようにしてほしいという声があったことを、本省、国へ伝えていただきたいと思います。

<北陸信越運輸局長野運輸支部>

具体的な制度の中身について個々にはまだ分かりません。現在、協議会でやっているところは全て連携計画を策定しておりますのが、これがどうなるのか、また新たに計画を策定しなければならないのか今のところ分かっておりません。情報が入り次第お伝えしたいと思います。

エ できれば、今までの計画はそのまま延長という形を要望しますし、そのような声があったということをお伝えいただければと思います。

オ 長野市の協議会、特にバスの関係は補助金がカットされてしまいましたが、見通しが立たないながらも、メインのＩＣカードを導入する方向で詰めています。国には来年度２倍以上の概算要求をしていただいておりますが、特別枠１０％の政策コンテストはこれからでございます。今後のスケジュールからすると年明けになってはつきりするとお聞きしておりますが、地方自治体は１月の中頃には予算が固まってしまう。今年は無理としてももっと早い段階で方向性なりが分かるようにしていただきたいと思います。予算づくりに当たっては想像でしかやっていけず、あとは補正でということになると非常に動きづらいのでその点ご配慮いただきたいと思います。

<議 長>

・他にございませんか。

なければ以上で協議事項を終了いたします。有難うございました。

5 閉 会

以 上